



BLUE-SKY

「自立」「敬愛」「創造」の精神のもとに
夢や志に向かって主体的に学ぶ生徒の育成

発行者
長崎市立橘中学校
校長 徳永 達樹

学習も加速する橘中生！

文化・体育面での活躍の知らせが絶えない本校生徒ですが、徐々に学習面でもより一層の成果を上げていくことができる学校へと進化できればと考えております。

学校評価の結果からも家庭学習のことを掲載させてもらいましたが学習においては学校内外で積み上げていく必要があります。

そこで本校では 10 月を「Qubena（キュービナ）の活用強化月間」とし、一人あたり月 450 問（一日あたり約 15 問）を最低目標数値として設定しました。

学校でもキュービナを活用した家庭学習について、先生方から子どもたちに意識づけをしていきますので、ぜひ御家庭でも御子様にお声かけしていただき、一歩一歩、一問一問努力していくようにお伝えください。



今日より明日、明日より明後日、できることからコツコツと継続
自分自身への挑戦 どうしてもわからないことは先生に質問！

中総体駅伝競技で私が見たもの

10月1日に今年度、最後（3年生が出場できる最後の大会）の中総体本大会である中総体駅伝競技が開催されました。「挑む姿」「挑む前の緊張感」「挑んだ後の達成感」を見せてくれました。結果は男子17位、女子9位という結果でした。一人一人がチームのタイムを短縮しよう、自分の記録を更新しようと1秒にこだわりぬきました。走っている最中、弱気になりつつある姿、どうしても足が前に素早く動いてくれない姿、他の選手に抜かれてしまう瞬間などネガティブなことが次々に襲ってきていました。それでも一本の襷に込められた何かをつなぐため走りぬきました。もがき苦しみながら動かなくなっている足をもう一度動かそうと必死になっている姿にはとても感動しました。その姿を見て、声援を送る声が震えました。

私が印象に残ったのは開会式と閉会式の時の表情の違いです。開会式の時は引き締まった表情で、全チーム緊張感がひしひしと伝わってきました。それが閉会式では全てのチームの選手の表情が和らぎ、達成感に満ち溢れていました。挑戦をやり切ったあとは、こうまでも清々しい気持ち、表情になるのかと思いました。

そしてもう一つは、仲間の声援です。本校を含め、出場しない選手が必死に走者に声をかける姿に心から感銘を受けました。一緒に練習し、どれだけきついことに挑戦しているか、わかっているからこそその声援、声援が力になることがわかっているからこそその声援が飛び交っていました。声援を送るものと送られるものとの間に「絆」と呼べるものを感じました。

追加でもう一つ、ちょっとしたこぼれ話ですが、今回、会場への行き帰りのバスが東長崎中と同乗でした。帰りのバスで本校が先にバスに乗っていたのですが、東長崎中の生徒が乗ってくるのを見て、入賞を果たしたことに本校生徒から「おめでとう！」と自然に拍手が送られたそうです。他の人の頑張りを素直に賞賛できること、拍手を送ることができること、とても嬉しいエピソードでした。

地域の行事について

この10月には、地域のイベントやお祭りなどが開催されます。

10月4日(日) 第46回少年主張大会 東部地区にこにこセンター 9:00~12:00

※本校からも1年 さん、2年 さん、3年 さん 出場！

10月7日~9日 長崎くんち ※7日は給食終了後下校とします。

10月24日(土) たちばなコミュニティ祭り 矢上団地近隣公園 12:00~15:00

※本校からも吹奏楽部の演奏に加え、子供を応援する会の皆さんからは出店していただいています。

他にも様々に開催されると思いますが、子どもたちの心の中にふるさとを刻み、豊かな心を育む機会となればと考えています。